

ヒューマン・ケア心理学 研修会

第2日 6月24日(日) 9:30~11:30

優心館 E305

「児童虐待」の対応に役立つ解決志向・入門編

【企画】 日本ヒューマン・ケア心理学会
【講師】 宮井 研治 (京都橘大学健康科学部)
【司会】 小泉 隆平 (近畿大学総合社会学部)

【講師略歴】

大阪市の臨床心理職員として、姫島子ども園、中央児童相談所、児童院に勤務。こども相談センター相談支援担当課長代理や虐待対応担当課長などを歴任。著書に「児童虐待と児童相談所—介入的ケースワークと心のケア」(金剛出版)、「発達相談と援助—新版K式発達検査2001を用いた心理臨床」(ミネルヴァ書房)、「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ〈仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ〉」(明石書店)、「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ—よりよい臨床のための4つの視点、8つの流儀」(明石書店)がある。

【概要】「児童虐待」対応の難しさは、介入と同時に支援についても考えていかないといけないところにあります。リスクアセスメントとともに、ケースの強み(ストレングス)についても、アセスメントする眼を持たなくてはなりません。強みを拾い上げる支援者側の姿勢に「解決志向」という考え方があります。解決志向アプローチは、アメリカにあるBrief Family Therapy CenterのSteve de ShazerとInsoo Kim Bergらが開発した、Solution Focused Therapyをモデルにして発展している新しい心理療法です。解決とは変化であり、クライアントは変化していくものという基本理念を「解決志向」は持っています。問題を聴くだけでなく、少しマシなところ、まだこわれてないところをさがすための支援者側の対応方法です。そのためには質問の仕方に工夫があり、クライアントの「マシなところ」を探し、ひろげ、強めることがこの面接の基礎となります。今回の研修会は、そんな解決志向の雰囲気味わい、質問の仕方についてエクササイズしていただける時間にしたいと考えております。児童虐待だけでなく、さまざまな分野の支援や危機介入に役立つものですので、ご関心のある方はぜひご参加ください。

注：研修会へのご参加には、大会参加とは別にお申し込みが必要です。お席に空きがございましたら当日参加も受け付けます。お申込にあたっては、大会ホームページ内「研修会のお知らせ」(<http://jahp.wdc-jp.com/conf/31st/others.html>)をご参照ください。

なお、本研修会は健康心理学研修会とは異なりますので、認定健康心理師資格に係わるポイントの取得はできません。